

横山禎徳著「成長創出革命」ダイヤモンド社 1994年2月21日刊を読む

雇用創造と不況下の企業の社会的責任、経営者の社会的使命(mission, ミッション)を考える

1. 究極の企業目標があるとするならば、「それは永遠に成長を続ける」ということではないだろうか。しかも望めるならば二桁(けた)の成長を。このような状況にあれば、新しい先端的な課題が、いつも全社員の身の回りに生じている。しかも、みんな外に目を向けて忙しくしている。社内の組織機構に多少の問題があっても余り目につかないし、気にならない。なぜなら、仕事はとにかく忙しく、おもしろいからだから、やっただけの手ごたえもある。これで社員が活性化しなければ、どうやって活性化するのだという状況になる。こういう状況こそ、企業にとってもそこで働く社員にとっても最も幸せなのだ。P12
2. 企業の社会的責任を問うならば、まずメセナやフィランソロピーを考える前に成長を、そして魅力ある新たな雇用創造を続けることを優先すべきではないだろうか。P13
3. 組織そのものの目的はさておき、組織に属している者が求めているのは自分が本来持っている潜在能力を発見させてくれる「場」としての組織だろう。P220

<コメント>

大不況の現代だからこそ横山氏の言うような成長創造、とりわけ雇用創造が企業・経営者の社会的責任と言える。

— 2009年1月1日林明夫記 —